

令和5年度 学校教育自己診断結果について

(1) 「確かな学力」の育成

本校では、「確かな学力」を保障するために、学習への興味・関心を持たせ、「わかる」授業づくりを通して基礎学力の定着、自ら学習する態度を養うこと。「主体的・対話的で深い学び」をめざし、自分で調べ、考え表現する力を育てる授業づくりをめざした。

学習指導に関する設問では、肯定的な評価の割合が減少した。具体的には、生徒アンケートの【質問5】で成績評価に関する項目で減少が見られる。【質問1、2】で授業そのものについて、肯定的な評価をする生徒が増えたり、【質問6】で教員の指導方法について肯定的な評価が増えたりしている一方で、観点別評価も含めて、十分な納得を得ている生徒が減っていると感じる部分があった。

また、コロナ禍によるグループ学習や実習・実験への制約が幾分緩和されたこともあり、生徒アンケートの【質問8：授業では体験を通して学ぶ機会がある】において、若干の回復傾向が見られた。（直近3年分の数値：68.8%→64.2%→69.2%）2022年度より新項目とした【質問10：授業の中で、タブレット端末等を活用する機会がある】については、肯定的評価が83.6%（前年度：54.9%）となった。タブレットの保管庫の敷設が進み、Chromebookを活用しての授業進んできたことに一定の評価がなされたと考える。

3年生のみを対象に行った総合学科に関する【質問46～48】については、各項目で大きく数字を戻す結果となった。入学当初から制約のある中で高校生活だったが、活動状況が少しずつ緩和されていくことに併せて、体験や経験を積むことができた部分を生徒なりに考えてくれたことが、この結果につながっていると考える。

学習指導に関して教員アンケートの分析を行うと、【質問11：グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている】（直近3年分の数値：78.6%→88.9%→76.9%）や【質問12】、【質問13】など、やや評価が難化している傾向にある。観点別評価への完全移行も含めて、先生方が授業の実施方法を模索・検討されている苦勞が伺える。

また、【質問7：騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない】では、引き続き課題がみられる数値となった。（直近3年分の数値：34.9%→35.2%→31.7%）学習に対して前向きに、当事者意識をもって臨むことが卒業してからも求められる課題解決能力の基盤となる。授業規律やマナーについて、学びに向かう環境づくりの一環としても指導を継続して行う必要があると感じた。

(2) 将来の目標に向かって努力する生徒の育成

①基本的な生活習慣の形成を図り、規範意識の醸成、高校生として望ましい態度とマナーの育成するために、遅刻・欠席等の状況改善と授業規律の確立および生徒一人ひとりの課題を踏まえ、理解と納得に基づく生徒指導、②キャリア教育の充実を図り、進路意識を高め自己実現の支援を努めてきた。

生徒指導に関する設問では、生徒アンケートの【質問15～17】について、2022年度に見られた肯定的評価の減少は是正された。しかし、自由記述にもあったように、指導の一貫性や伝え方、統一感（人によって言うことが違うなど）をもって指導にあたるのが今後より一層必要になってくると考える。その為にも日頃から教員間での情報共有と確認が必要だと考える。

生徒の反応が保護者にも伝わっていると感じる項目がある。保護者アンケートの【質問11～13】で、肯定的な評価は平均して75%程度あるが、その一方で、保護者アンケートの【質問9：高校の生徒指導の方針は、保護者に示されている】の肯定的な評価に若干の減少が見られる。先ほども述べたように、一貫性や統一感の観点から保護者が疑問に思う部分がこの数値に表れているとも感じられる。関連性のある項目であっても、数値の上昇・下降が相反するものになっており、分析に少し戸惑う部分もある。生徒理解と生徒指導とは切り離して見られている部分もあるとも考えられるため、生徒指導に対して生徒や保護者に意図や思いを正しく伝えることの難しさを知る結果となった。

進路指導に関しては、生徒アンケートの【質問 18~21】の全ての項目について昨年度並みの数値を維持しており、GSでの取り組みなどが認知されつつあると考える。2021年度からGSで卒業生等にお越しいただき、企業講話や上級学校講話等を取り入れ継続してきたことで、生徒自身に考えてもらえる時間が増え、キャリア教育の拡充ができたと考える。ただし、授業で全ての職業について紹介するには時間に限りがあるため、【質問 20: いろいろな職業について、具体的に考える機会がある】では、数値の上昇に反映されない部分もある。次年度以降に向けて、検討していく必要があると考える。

教育相談に関しては、生徒のアンケート【質問 23~24】のいずれについても高数値の肯定的評価を継続して挙げている。同様に保護者の回答を見ても、保護者アンケートの【質問 19: 学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれている】についても肯定的評価が多い。(直近3年分の数値: 73.1%→77.4→76.6%) ただし【質問 14】や生徒のアンケートの【質問 22】については昨年度より数値が減少している部分が見られるため、今以上に日頃の生徒や保護者とのやりとりを重ねていく必要があると考える。家庭環境や経済状況が厳しさを増す中、教員が生徒の生活に寄り添った関わりを持つことも必要とされる。

社会が時代と共に変化し、それに併せて子どもたちに求められていくものが変わってくる中で、時には厳しく、時には寄り添って生徒や保護者と向き合っていくことが今後一層必要になってくると考える。

(3) 安全安心で魅力ある学校づくり

自らの課題に向き合い、生徒同士がつながる取組みを推進するために、①生徒の協調性や自主性を育む集団づくり、校内環境の整備や部活動の活性化、②あらゆる教育活動を通じた人権教育や個別支援の必要な生徒の状況改善、③地域とつながる取組み等の推進を行ってきた。

生徒アンケートの【質問 42: 伯太高校を選んだ理由】の【①総合学科だから】と【③オープンスクールや学校説明会で興味を持ったから】で数値の上昇が見られる。先生方にご協力いただき、様々な場所で広報活動を続けてきたことが、この数値に表れていると考える。そういった場合も含め、入学前にいろいろと話を聞いた上で受験・入学してくる生徒が増えていることが伺え、その為もあってか、【質問 12: 伯太高校の印象は、入学前とあまり変わらない】について昨年度と同様の肯定的評価を得ている。ただし、【質問 13: 自分の学級は楽しい】 = 【質問 14: 学校に行くのが楽しい】にならず、比例するとまではいかない。

保護者の反応については保護者アンケートの【質問 5】、【質問 6】、【質問 8】が同じような変化になっていることから、家庭内でのコミュニケーションの様子や学校の様子の伝わり方に様々な状況があることが考えられる。その一方で、家庭から見て学校や教員が子どもの様子を知るために必要な存在になっていることは、保護者アンケートの【質問 23~24】の経年で見た肯定的な評価の減少からも見てとれる。

人権教育に関して、生徒アンケートの【質問 25~26】や【質問 29~30】で肯定的な評価が増加している。GSやLHRでの活動を含め行っていることが、「自分事」として捉えることができているように考えられる。中には、自由記述の意見としてLGBTQsに関する意見も出ており、今後も講演会などを通して、普遍的なテーマを基本としながらも、生徒の様子や時代の変化に合わせて対応していくことが求められてくる。

学校行事については、制約が緩和され、予定通り実施することができた。体育祭 83.2% (前年度: 81.2%)、文化祭 88.7% (前年度: 88.8%) の肯定的評価を得ることができた。修学旅行の 75.8% (2年生、前年度: 85.5%) については、今回のアンケートは修学旅行前に調査をしているため、このような数値となっている。生徒の様子を保護者も実感してくれており、保護者アンケートの【質問 26: 学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている】では肯定的な評価をさらに大きく伸ばすことになった。学校行事等から得られる経験や満足感は非常に大きく、その後の進路実現に向けたアピールポイント作りにも大いに役立ててほしいと考える。